

明治三十六年 己卯（一九〇三年） 花蹊六十四歳

〔明治三十六年当用日記〕（No.12）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／卅六年／当用日記』。明治三十五年十月三日印刷、明治三十五年十月八日発行。発行者、東京市日本橋区下槇町十一番地 東京図書出版合資会社 代表者 西村寅次郎。印刷者、東京市日本橋区樽正町十二番地 赤田末吉。印刷所、同京橋区元数寄屋町四丁目二番地 福岡商店印刷部。発行所、東京市日本橋区下槇町十一番地 東京図書出版合資会社。洋紙洋装。黒色クロス表紙、背革装金箔押し。縦十九・四cm×横十二・八cm。鳥の子色見返し。扉一丁、諸表一〜六十三頁、「満年算月表」半丁、日記本欄二百丁半（年末に「一月会計」〜「十二月会計」の欄あり）、「備忘録」三丁分、「人名録」三丁半、奥附一丁。記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。巻末「備忘録」欄に記された本年の支出は「（明治三十六年会計）」として、日記本文の後に収めた。挿入紙あり。金銭出納帳の一丁分。洋紙（縦二十一・四cm×横十七cm）にペン横書。内容から「（明治三十六年会計）」の後、本年末尾に収めた。

明治三十七年 庚辰（一九〇四年） 閏年 花蹊六十五歳

〔明治三十七年当用日記〕（No.13）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／卅七年／当用日記』。明治三十六年九月廿五日印刷、明治三十六年十月一日発行。発行者、東京市日本橋区下槇町十一番地 東京図書出版合資会社 代表者 西村寅次郎。印刷者、東京市日本橋区樽正町十二番地 赤田末吉。印刷所、東京市京橋区元数寄屋町四丁目二番地 福岡商店印刷部。発売所、東京市日本橋区通四丁目 東雲堂書店、東京市日本橋区下槇町二番地 集文館。正価、金五拾銭。洋紙洋装。狐色クロス表紙、背革装金箔押し。縦十九・四cm×横十三cm。鳥の子色見返し。扉一丁、諸表一〜五十六頁、日記本欄二百一丁（毎月末に「〜月会計」の欄あり）、「備忘録」三丁、「人名簿」四丁、奥附一丁。記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。

明治三十八年 乙巳（一九〇五年） 花蹊六十六歳

〔明治三十八年当用日記〕（No.14）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／三十八年／当用日記』。明治三十七年十月七日印刷、明治三十七年十月十日発行、明治三十七年十一月廿五日版発行。編輯兼発行者、東京市日本橋区本町三丁目八番地 大橋新太郎。印刷者、東京市小石川区久堅町百〇八番地 水谷景長。印刷所、東京市小石川区久堅町百〇八番地 合資会社 博進社工場。発兌元、東京市日本橋区本町三丁

目博文館。定価、金参拾五銭。洋紙洋装。縹色総クロス表紙、空押し枠模様、背金箔押し。縦十九・五cm×横十三cm。鳥の子色見返し。扉一丁赤青黒三色刷、諸表二丁赤一色刷、日記本欄一〜三七八頁、「補遺」「金銭出納簿」「住所人名録」等一〜五六頁、附録目次一丁赤一色刷、附録「国民用便覧」等一〜一〇〇頁、奥附および広告一〜八頁。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。本年の当用日記には、毎日の記述頁に受方、払方の欄がないため、花蹊は、「発信」「受信」の欄を用いて、収入および支出を記入している。よって、収入には受信欄の「受」、支出には発信欄の「発」を残して、その後収入および支出の内容を起こした。巻末「日記補遺」欄に記された月ごとの会計は、「(明治三十八年会計)」として、日記本文の後に収めた。

明治三十九年 丙午（一九〇六年） 花蹊六十七歳

〔明治三十九年当用日記〕（No.15）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『実用日記 特製 明治三十九年』。明治三十八年十月六日印刷、明治三十八年十月十日発行。発行兼印刷者、東京市日本橋区本町三丁目十七番地 金港堂書籍株式会社。代表者、右社長 東京市下谷区竜泉寺町四百十四番地 原亮一郎。印刷所、東京市京橋区築地三丁目十五番地 帝国印刷株式会社。売捌所、各府県特約販売所。定価、金参五拾銭。洋紙洋装。煤竹色クロス表紙空押し模様、背革金箔押し。縦十九・一cm×横十二・九cm。鳥の子色見返し。見返しに「附録目次」を印刷。見返し遊びを短く残し、それを足として赤一色刷標題および「祭日及日曜表」一丁を張り込み、扉とする。続いて赤一色刷皇室関係表一丁を貼り込み、一〜二頁とする。「本年中重要記事目録」三〜五頁、日記本欄六〜三八二頁、「金銭出納簿」三八三〜四一三頁、「明治三十九年金銭收支比較表」四一四頁、「誕生日、忌日命日」四一五〜四一六頁、四一七〜四一八頁一丁分破れ欠落。「人名録」四一九〜四二二頁、附録四二三〜四七四、奥附一丁、広告一〜一〇頁。広告九〜一〇頁は裏見返し遊びに印刷。

記述は、墨筆、鉛筆またペンの交じり書き。巻末「金銭出納簿」欄に記された日別收支、「明治三十九年金銭收支比較表」欄に記された月別收支、「人名録」欄に記された毎月の諸会費は、「(明治三十九年会計)」として一括し、日記本文の後に置いた。

明治四十年 丁未（一九〇七年） 花蹊六十八歳

〔明治四十年当用日記〕（No.16）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／四十年／当用日記』。明治三十九年十月十四日印刷、明治三十九年十月十七日発行。発行兼編輯者、東京市日本橋区本町三丁目八番地 大橋新太郎。印刷

者、東京市牛込区市ヶ谷加賀町一ノ十二飯田三千太郎。印刷所、東京市牛込区市ヶ谷加賀町一ノ十二株式会社秀英舎第一工場。発兌元、東京市日本橋区本町三丁目博文館。定価、金参拾五銭。洋紙洋装。鶯萌葱色総クロス表紙空押し枠線模様、背金箔押し。縦十九・五cm×横十三cm。表紙に花蹊の手で「不言」と墨書。鳥の子色見返し。扉一丁赤青黒三色刷、皇室関係諸表一〜四頁赤一色刷、日記本欄一〜三七八頁、「補遺」「金銭出納録」「住所人名録」等一〜五六頁、附録目次一丁赤一色刷、附録「国民日用統計・規則類」等一〜九四頁、奥附および広告一〜八頁。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。巻末「金銭出納録」欄に記された日別収支は、「明治四十年会計」として日記本文の後に置いた。附録三六〜三七頁の間に臙脂色朝顔の押し花あり、三七頁に附着。

明治四十一年 戊申（一九〇八年） 閏年 花蹊六十九歳

〔明治四十一年当用日記〕（No.17）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／四十一年／当用日記』。明治四十年十月十五日印刷、明治四十年十月十八日発行、明治四十年十一月卅日五版発行。発行兼編輯者、東京市日本橋区本町三丁目八番地 大橋新太郎。印刷者、東京市小石川区久堅町百〇八番地 市川七作。印刷所、東京市小石川区久堅町百〇八番地 博文館印刷所。発兌元、東京市日本橋区本町三丁目 博文館。定価、金参拾八銭。洋紙洋装。錆浅葱色総クロス表紙空押し枠線模様、背金箔押し。縦十九・四cm×横十三cm。鳥の子色見返し。扉一丁赤青黒三色刷、皇室関係諸表一〜四頁赤一色刷、日記本欄一〜三八〇頁、「補遺」等諸欄、附録諸表類および奥附一〜一五〇頁、広告一〜六頁。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。日記欄一月十日〜十一日の間に桜の押し花あり。巻末「金銭出納録」欄および「住所人名録」欄に記された日別収支は、「（明治）四十一年（会計）」として、日記本文の後に置いた。

名刺の挿入二点および挿入紙二点あり。（名刺1）以外は、末尾に納めた。

（名刺1）日記欄十月二十九日〜三十日の間に東京日々新聞美術部担任 川村文芽の名刺挿入。縦八・八cm×横四・九cm、裏白。

（名刺2）都新聞記者 黒屋直房の名刺。縦八・八cm×横五cm、裏白。

（挿入紙1）跡見女学校用出席簿に記された覚え書き。昭和五十六年十一月、日記編纂事業のために行った写真撮影時には存在したが、現在は所在不明。焼き付け写真により翻字を行った。

（挿入紙2）跡見女学校用出席簿に記された余暇乙生の生徒氏名。同じく、現在は所在不明。焼き付け写真により翻字を行った。

明治四十二年 乙酉（一九〇九年） 花蹊七十歳

〔明治四十二年当用日記〕（No. 18）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／四十二年／当用日記』。明治四十一年十月廿七日印刷、明治四十一年十月卅一日発行。編輯兼発行者、印刷者、印刷所、発兌元は、明治四十一年に同じ。定価、金五拾銭。洋紙洋装。瑠璃色総クロス表紙空押し模様、背金箔押し。縦二十二・八cm×横十五・二cm。鳥の子色見返し。扉一丁赤黒二色刷、皇室関係諸表一〜四頁赤一色刷、日記本欄一〜三七八頁、「補遺」等諸欄、附録諸表類一〜一四一頁、奥附一頁分、広告一〜八頁。記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。巻末諸欄および「金銭出納録」欄に記された日別収支は、「（明治四十二年会計）」としてそのままの順序で日記本文の後に置いた。挿入六点あり。（郵便はがき）以外は、末尾に挿入した。

（郵便はがき）花塘 宮田さわ子一周忌追悼和歌懇請の未使用ハガキ。縦一四・三cm×横九・一cm、横置きに印刷。内容から六月四日の後に置いた。

（新聞切り抜き1）「大阪大火の現状」の切り抜き。縦十三・三cm×横十六・四cm（枠線内計測、以下同）。大阪大火は、明治四十二年八月一日。

（新聞切り抜き2）「故二荒芳之伯」顔写真の切り抜き。縦六・六cm×横五・六cm。二荒芳之は、明治四十二年八月十八日没。

（新聞切り抜き3）「閑院宮姫君の御作文」の切り抜き。縦十二・四cm×横十六・四cm。太田遠足は、十月十六日。酒井伯看菊は、十一月十三日。

（新聞切り抜き4・5）「井伊直弼（九）（十）」の切り抜き。（九）、縦十二・六cm×横三十一・三cm。（十）、縦六・三cm×横二十一・三cm。

明治四十三年 庚戌（一九一〇年） 花蹊七十一歳

〔明治四十三年当用日記〕（No. 19）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『実用日記 明治四十三年』。明治四十二年九月十七日印刷、明治四十二年九月廿五日発行。編輯兼発行者、東京市日本橋区本町三丁目十七番地 金港堂書籍株式会社。代表者社長、原亮三郎。印刷者、東京市京橋区築地南小田原町二丁目九番地 中野鏝太郎。印刷所、東京市芝区愛宕町三丁目二番地 東洋印刷株式会社。発売所、東京市日本橋区本町三丁目 金港堂書籍株式会社。定価、金四拾銭。洋紙洋装。梅鼠色総クロス表紙空押し模様、背金箔押し。縦十九cm×横十三cm。緑色見返し。見返し遊びを短く残し、それを足として赤緑青三色刷標題および行事日曜表一丁を貼り込み、扉とする。続いて赤一色刷皇歴代年表三丁を貼り込み、一〜六頁とする。日記本欄一〜三七八頁、「金銭支出簿」三七九〜四〇八頁、「金銭収入簿」四〇九〜四一六頁、「収支一覧表」四一七〜四二九頁、「貸借表」

四三〇～四三五頁、「家族名簿」四三六～四三七頁、「人名録」四三八～四四九頁、「誕生日、忌日命日」四五〇～四五二頁、「雑録」四五二～四六四頁、附録諸表四六五～五一四頁、奥附一頁分、広告三頁分。裏見返しに『日本国鉄道航路案内地図』の挿入用貼り込み袋あり。地図本体は残されていない。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。巻末「金銭支出簿」欄および「金銭収入簿」欄に記された日別収支、また「金銭物品貸借簿」欄および「家族名簿」欄に記された反物到来・反物贈り物は、「(明治四十三年会計)」として一括し、日記本文の後、「雑録」の前に置いた。

明治四十四年 辛亥(一九一一年) 花蹊七十二歳

〔明治四十四年当用日記〕(No. 20) に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／四十四年／当用日記』(扉より推読)。明治四十三年十一月七日印刷、明治四十三年十一月十日発行。発行兼印刷者、東京市日本橋区本町三丁目八番地 大橋新太郎。印刷者、東京市小石川区久堅町百〇八番地 水谷景長。印刷所、東京市小石川区久堅町百〇八番地 博文館印刷所。発行所、東京市日本橋区本町三丁目 博文館。定価、金五拾銭。洋紙洋装。藍色クロス表紙空押し模様、背革金箔押し。縦十九・四cm×横十三cm。抹茶色地に白抜き細かな立湧模様入り見返し。扉一丁赤黒二色刷、皇室関係諸表二丁赤黒二色刷、日記本欄一～三七八頁、「補遺」一～二二頁、「金銭出納録」二三～五四頁青一色刷り、「住所人名録」五五～七〇頁、附録諸表・諸規則類七一～一四二頁、奥附および広告一～八頁。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。一月冒頭に和歌の書き込みあり。巻末「日記補遺」に記された反物到来・贈り物および「金銭出納録」欄に記された日別収支は、「(明治四十四年会計)」として一括し、そのままの順序で日記本文の後に置いた。挿入紙一点あり。遠藤元三の原氏への紹介紙片、鉛筆下書き。縦十・三cm×横七・四cm。巻末に収めた。

明治四十五年 壬子(一九一二年) 閏年 花蹊七十三歳

〔明治四十五年当用日記〕(No. 21) に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／四十五年／当用日記』。明治四十四年十月七日印刷、明治四十四年十月十日発行。発行兼印刷者、東京市日本橋区本町三丁目八番地 大橋新太郎。印刷者、東京市小石川区久堅町百〇八番地 水谷景長。印刷所、東京市小石川区久堅町百〇八番地 博文館印刷所。発行所、東京市日本橋区本町三丁目 博文館。定価、金卅八銭。洋紙洋装。常磐色総クロス表紙空押し模様、背金箔押し。縦十九・三cm×横十三・一cm。苔色地に上下に

白抜き松葉散らし模様入り見返し。扉一丁赤黒二色刷、皇室関係諸表二丁赤黒二色刷、日記本欄一〜三八〇頁、「補遺」三八一〜四〇〇頁、「金銭出納録」四〇一〜四三二頁青一色刷り、「住所人名録」四四三〜四四八頁、附録諸表・諸規則類四四九〜五二〇頁、奥附一頁分、広告二〜八頁。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。

大正二年 癸丑（一九一三年） 花蹊七十四歳

〔大正二年当用日記〕（No.22）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『教育家日記 大正二年』。大正元年十二月十二日印刷、大正元年十二月十五日発行。編輯兼発行者、印刷者、印刷所、発行（売）所は、明治四三年に同じ。代表者社長は「原亮一郎」とあり。洋紙洋装。鉄紺色総クロス表紙空押し・金箔・胡粉差し、背金箔押し。縦十九cm×横十・三cm。黄緑色表見返しに行事および日曜表を印刷。見返し遊びを短く残し、それを足として一丁を貼り込み、扉とする。続いて赤一色刷の皇室関係諸表一〜一七頁。赤一色「日曜曆」一頁分。日記本欄二百七十七頁分。「人名簿」四頁分。「雑録」九頁分。附録諸表一〜一〇四頁。奥附一頁。広告2〜10頁。裏見返し遊びに、広告9〜10頁を印刷。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。巻末「雑録」欄に記された支出控えは、「（大正二年會計）」として、日記本文の後に置いた。当用日記にあらかじめ印刷されている曜日が、七月二十七日〜三十一日間、一日遅れたものとなっている。花蹊はそれを訂正しているが、一々注記せず、すべて正しい曜日に改めた。また天候は、あらかじめ印刷された「晴・雨・曇・風」の記述に、○を付して選択する形となっている。しかし、その形を残さず、選択された天候を記した。

挿入写真一葉あり。日記欄十月十五日〜十六日の間に、新美氏より贈られたと思しき東郷平八郎書幅のアルビュメン・プリント一葉（裏面にアルバムより剥離の痕跡あり）挿入。縦八・六cm×横五・五cm。写真は偶々の挟み残しかとも思われるが、一応、十月十六日の後に挿入しておく。